

中1の1学期中間は、生徒が人生で初めて受ける「英語のテスト」です。ここで平均点を落とすと、英語嫌いを3年分育ててしまう。だからこのテストは「授業に参加していた生徒が確実に得点できる」ことを最優先に設計しています。問題・解答用紙・リスニング台本・配点表の一式に加えて、各大問の出題意図も解説しているので、自校仕様への改変が容易です。

この教材で解決できる悩み

- ・初めての定期テストで何をどこまで出題してよいか判断が難しい
- ・リスニングの台本と放送手順まで手が回らない
- ・「授業をがんばった子が報われる」テストにしたい

大問構成(100点満点)

大問	内容	配点	ねらい
1	リスニング(5種構成)	24点	授業で聞いた音をそのまま出題
2	英語の書き方ルール訂正	4点	大文字・ピリオド・分かち書き
3	アルファベット順の並べ替え	4点	辞書引きの素地
4	語順整序	4点	be動詞文の型
5	数字の英語書き	10点	0～12の綴り
6	ヘボン式ローマ字	8点	地名・人名の書き方
7	場面英作文(物を渡す・お礼)	6点	教室英語の運用
8	対話の空所を埋める英作文	6点	やり取りの継続
9	条件つき自己紹介英作文(4文)	8点	1学期の集大成
10	対話文読解(日記形式の内容把握)	26点	初見でも文脈で読める

設計のポイント

リスニングは「授業の再現」で構成

アルファベット・数字の書き取り、教室英語を聞いて行動を選ぶ問題(Repeat after me. → 「先生のあとに続いて言う」を選択)、cat / cute のような聞き分け、自己紹介の対話を聞いてカードを完成させる問題の5本立て。授業で毎時間聞いていた英語がそのまま出るので、真面目に授業を受けた生徒への最高のごほうびになります。台本には読みの間(2秒・3秒)まで指定済みです。

読解は「日記」で内容把握を問う

大問10の仕上げは、登場人物がその日の出来事を日記に書いたという設定の空所補充。「本文と同じ内容の別テキスト」を読ませることで、単なる抜き出しではない内容理解を測れます。Pardon?(聞き返し)がどこに入るかを選ばせる問題も、対話の流れを読む良問として機能します。

遊び心の枠を1問

ローマ字の大問に「担任の先生のフルネームをヘボン式で書く」を入れています。教室が少し和む上、身近な固有名詞こそ本気で書けてほしいという実用のメッセージです。

表紙の注意書き(「リスニングは開始5分後に流れます」「最後まであきらめないこと」など7項目)もテンプレとして収録しています。初めてのテストでは、この注意書きの読み合わせ自体が「定期テストの受け方」の指導になります。放送開始時刻は職員間で必ず統一してください。

実施後に

大問9の自己紹介英作文は、採点後に良答を数枚選んで(本人の了承を得て)学級通信や次の授業で紹介するのがおすすめです。「テストの解答が教材になる」サイクルは2学期以降の書く意欲に直結します。